

も テモテ通信

Vol.9 2021-2022 ウィンター号



Merry Christmas & Happy New Year!!

主の御降誕のお慶びを申し上げます！

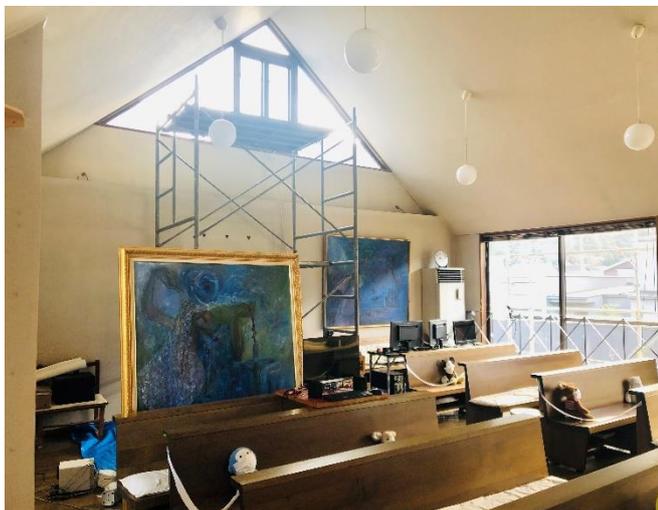
2021年は、個人的に心を騒がせる出来事が多すぎて、ザワザワとしたままクリスマスを迎えました。コロナ禍によって集まれず、入院された方のところにはお見舞いにも行けず、つらい年でした。それでも、どんな厳しい状況にあってもクリスマスはやって来ます。一番つらいときにイエスさまがともにいてくださるために。どんな「自分」であっても、神さまは全肯定してくださいます。そして有無を言わさず、年も明けるのです。新年も、すべての人々に、神さまの恵みと愛が豊かに降り注ぎますように。

12月17日、足場が組まれ、工事が始まりました。

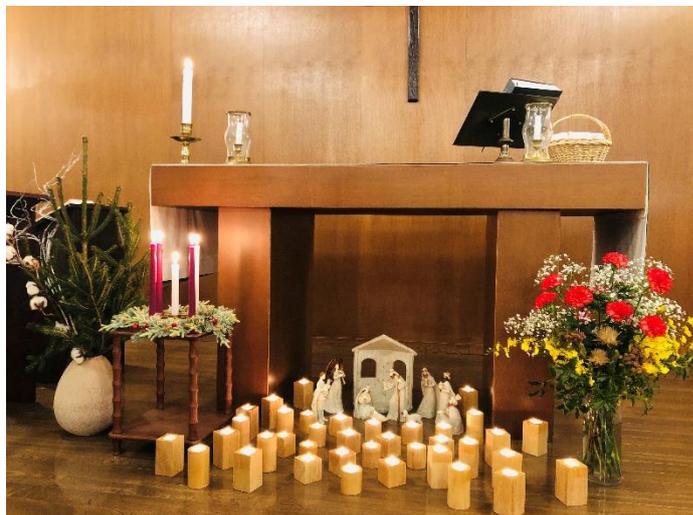
礼拝堂後ろにある排煙窓を電動の窓に取り替え、1階の雨漏りの修繕工事です。金曜日に足場が組まれ、そのままの状態の日曜を迎えました。窓の付け替えが終わっても足場がそのまま、24日の朝になりました。足場の撤去は午後になるということで、準備が出来るのか？とドキドキしましたが、早い時間に終わったので、しっかりオルガン練習もできました。

今年も三木亜佐子さんがお花とろうそくを飾ってくださったので、美しいなかでクリスマス・イブ礼拝や、25日のみ言葉の礼拝と陪餐は聖歌を全節演奏できて、とても嬉しく思いました。

時代に即した礼拝の形を模索することは、とても重要なことではありますが、やはり、皆で集まって神を賛美し、礼拝を献げること。これに勝ることはないようにも思います。



24日朝の礼拝堂



クリスマス・イブ礼拝後

11月18日 半田聖ピリポ伝道所「閉所式」

礼拝堂が焼失してから空き地になっていた半田聖ピリポ伝道所の土地をお隣に住む方にお譲りすることになり、最後に感謝の祈りを捧げてきました。秋山司祭を始め、インマヌエル教会の方々数人と、テモテ教会から武市正大さんが参加されました。



秋晴れの中、皆で祈りを捧げました。



いつもより短めの秋山司祭の思い出話。

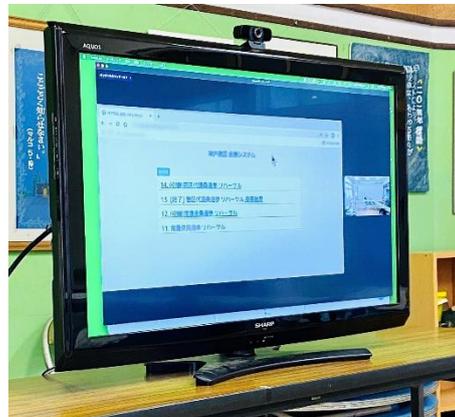
11月23日 神戸教区教区会

今回の教区会もオンラインで行われました。徳島の4教会の代議員は徳島インマヌエル教会に集まりました。前は、教区会前の1ヶ月、毎週練習を繰り返して準備していましたが、今回は皆さん経験済みなので、余裕が感じられました。ただ、今年は常置委員、総会代議員の選挙の投票システムを宮田せんせえが作り、わたし宮田美樹はオペレーション担当としてお手伝いしました。練習の時は、コンピュータになれていらっしゃる方々には大変な事で、だいぶ時間が取られていたようですが、本番は投票そのものの時間は短縮されたように思います。

コロナ禍に対しての処置として「オンライン会議」になりましたが、神戸に集まる大変さや、費用の事などを考えると、通常の会議方法としてオンラインというのも有効だと感じました。投票も、各自のスマートフォンやパソコンから出来、集計は一瞬で終わります。



テレビの画面には他の会場が映っています。



投票システム

追悼 ベタニヤのマリヤ河田晴子さん



11月半ば過ぎから、徳島県の新規コロナウイルス感染者がでなくなりしました。そんな中、12月10日に週報を持って河田さんをお訪ねしたところ、容体が悪化され、ご自宅でのターミナルケアが始まっていました。11日にもお訪ねし、愛唱聖歌の「きよしこの夜」と「主われを愛す」を歌ってきました。12日に行われた教会委員会で、「次週から聖歌アナウンスはしないけれど、全節演奏しましょう」と決まり、事実上歌えることになるので、クリスマスには河田さんと「きよしこの夜」を一緒に歌える！と嬉しく思ったのですが、12月15日、ベタニヤのマリヤ河田晴子さんは天に召されました。16日に行われた通夜にはもちろん「きよしこの夜」を歌いました。その他「主われを愛す」や、「主にしがたいゆくは」など、愛唱聖歌を歌っ

て神さまのもとへとお送りすることが出来ました。

河田さんを思い浮かべるとき、わたしは、30年近く前にイギリスで出会った老婦人を思い出します。その方も小柄で、高めの声質で、紅茶（もちろんミルクティー）とお菓子をこよなく愛し、「Thank you.」と言う代わりに「Lovely.」とおっしゃっていました。その容姿と醸し出す雰囲気、河田さんに良く似ていました。

もう、礼拝堂の後ろの窓際からコロコロとしていながら、のんびりとしたお声が聞けないと思うととても寂しいです。河田晴子さんの靈魂の平安を心からお祈りいたします。



2019年9月14日西山さんのお宅にて

テモテ教会 より

☆2022年度の教会委員と信徒代議員が決まりました。

教会委員は、長田洋子さん、武市正大さん、三木亜佐子さん、宮田美樹の4人です。

信徒代議員は、武市正大さんです。1年、よろしく願いいたします。

☆2022年2月13日に現在堅信受領者総会が行われます。

現在堅信受領者の方々にはお知らせが届きますのでご参集ください。ご出席が難しい場合、委任状をお送りください。

☆オンライン礼拝

8:00 Youtube 及び zoomで参加可

10:30 Wherebyで参加可

18:00 Youtube 及び zoomで参加可



zoom



YouTube



Whereby

Whereby : <https://whereby.com/seitemote-tokushima-service>

zoom : ミーティングID:864 7089 7046 パスコード:481359

みやた せんせえ より

パンデミックの先の教会

パンデミックの世界で生きていく事になって2年目を迎えました。マスクが不要になる世界が来るのかどうか、それともマスク着用が靴下着用と同じくらい普通のことになって行くのか。

イエスが行った三つの柱は、教育と医療と供食でした。教えと癒やしと食(パン)です。キリスト教はイエスの行ったこれらの三つの柱を中心に宣教活動を行ってきました。明治時代に日本に入ってきたキリスト教も、これらの三つの柱を中心に宣教活動を行ってきました。学校や病院を建て、貧困層への救済活動を行い、さらにそれらのパトロンを獲得するために富裕層への宣教も積極的に行ってきました。これらの名残によって今の教会が残っているとも言えるでしょう。教育は学校が担い、医療は心身ともに専門医療の分野になりました。心の癒やしも専門医療分野によって担われています。そして食は資本主義社会に於いては経済活動の一つです。子ども食堂が増えていますが、本来は私たちの税金を使い、政治によって貧困対策が行われ、生活困窮者の支援が行われなければなりません。民間の善意によって救済していることは、この国の政治経済の貧困の表れでしょう。

昔も今も、私は教会委員会を始めとして教会活動の50歳定年制度を表明しています。すでに私も50歳になり自意識では定年を迎えます。50歳になって良くわかるのは、30代20代、さらには10代の生きている世界が、私の見ている世界と全く違う世界だと言うことです。40歳になった時に強く実感しましたが、教会が50歳以上の人たちで運営されている限りはその将来は明るくないという現実です。10代20代の人たちが集う仕組みを作っているのは良いところ40歳代まででしょう。教会の将来を見据えた活動を行うには、50歳未満のメンバーで運営していく必要があります。「人がいないんですが」と言われたことがあります。「それは育ててこなかったんです」と答えました。若い人たちが運営している教会で、ニコニコと後ろから支えるキリスト者でありたいと思っています。

12月上旬、一時、長男と連絡がつかなくなりました。もう二十歳を超えた大人ですから、それほど気にすることでもないことだったのですが、ただオロオロしてしまいました。年末年始には帰ってきて、何事もなかったように6人で過ごしました。家族が揃っていることが、「心の平安」につながっていると痛感しました。

2021年は、テモテ教会から離れていかれる方の多い年でした。1月2日(日)の礼拝は、オンライン会衆だけで、礼拝堂にはわたしと宮田せんせえだけでした！2022年は、人の増える年になると良いな。と思っています。

あらためて、本年もどうぞよろしくお願いいたします。

マルセラ宮田美樹

2022/1/6発行

